



① 申請者	出雲市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E	
③ タイトル 日が沈む聖地出雲 ～神が創り出した地の夕日を巡る～				
④ ストーリーの概要（200字程度） 島根半島西端の海岸線は、出雲神話の舞台となった「稲佐の浜」と「日御碕」の名で親しまれ、そこから見る夕日は絶景です。しかしこの海岸線に、夕日にちなんだお社である「天日隅宮」（出雲大社）と「日沉宮」（日御碕神社）が祀られていることはあまり知られていません。 古来、大和の北西にある出雲は、日が沈む聖地として認識されていました。とりわけ、出雲の人々は夕日を神聖視して、畏敬の念を抱いていたと考えられます。 海に沈むこの地の美しい夕日は、日が沈む聖地出雲の祈りの歴史を語り継いでいます。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="252 891 785 1243">  </div> <div data-bbox="813 891 1347 1243">  </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">稲佐の浜の弁天島と夕日 日御碕神社の日沉宮</p>				
⑤ 担当者連絡先				
担当者氏名				
電 話		FAX		
E-mail				
住 所				

市町村の位置図 (地図等)





<日御碕・宇龍地域>



<長浜地域>



< 鷺浦・猪目地域 >

ストーリー

神が創り出した海岸線

『出雲国風土記』の「国引き神話」では、出雲平野の北にそびえる山塊と西を縁取る砂浜は、巨大な神ヤツカミズオミヅヌが、海の彼方から引き寄せた「国（土地）」と使った「綱」とされています。また、砂浜と山塊の境に位置する浜は、オオクニヌシが高天原の使者タケミカヅチと会見して、国を譲り渡すことを承諾した『古事記』の「国譲り神話」の舞台として知られています。

西方の海に弓なりに開くこの海岸線は、滑らかな砂浜から岩肌がむき出しの荒磯へとダイナミックに変化し、まさに神業によると例えられるにふさわしい景観です。

奈良時代に「伊那佐之小浜」や「出雲御崎山」と記されたこの海岸線は、今ではそれぞれ「稲佐の浜」や「日御碕」の名で親しまれており、いずれも日本海に沈む夕日の絶景エリアとして人々に愛されています。

しかし、出雲の人々がいにしえからこの地で日の入りにちなんだお社である「天日隅宮」と「日沉宮」を祀り、夕日に畏敬の念を抱いていたことはあまり知られていません。

稲佐の浜の夕日と「天日隅宮」

夕暮れ時の稲佐の浜に立つと、^{くれない}紅に染まる空が渚にたたく^{べんてんじま}弁天島のシルエットを際立たせる幻想的な光景が広がります。また、弁天島より南では見渡す限りの夕焼け空と、海に溶け込む^{あかね}茜色の光が織りなす大パノラマを体感できます。

稲佐の浜（^{そのながはま}藺の長浜）は南北約 10km にわたる砂浜で、かつては西へ開いた出雲の海の玄関口として多くの船や人を迎えました。「国譲り神話」の舞台となったのは稲佐の浜の北端で、この弁天島がある辺りと言い伝えられています。ここでオオクニヌシは自身の霊が住むための宮を築くことを条件に国譲りを承諾しました。この宮が浜から東へ 1km ほど離れた出雲大社であり、

『日本書紀』では「天日隅宮」と記されています。その名称から、この地がかつて日が沈む聖地として認識されていたことがうかがえます。

今でも旧暦 10 月 10 日には日没を待って、出雲大社の神職が全国から^{やおよろず}参集される八百万の神々をお迎えする「^{かみむかえ}神迎神事」がこの稲佐の浜で執り行われています。太古から変わらない日の入りへの思いは、今日まで連綿と受け継がれています。

日御碕の夕日と「日沉宮」

日御碕の海岸線は、奇岩や絶壁が複雑に入り組む荒々しい景観を呈しており、稲佐の浜とはまた異なった魅力のある夕日や景色を見ることができます。平安時代初期、画聖の^{こせのかなか}巨勢金岡は、この海岸線にある島の一つを絵にしようとしたのですが、朝夕刻々と変化する美しさをついに描ききれず絵筆を投げたそ



島根半島西部



稲佐の浜（藺の長浜）



夕焼け空と弁天島

うです。「^{ふでなげじま}筆投島」の名称の由来として伝わるこのエピソードは、そのことを端的に示しています。

日御碕の名が示すとおり、古くから「日」に縁がある岬として広く知られていたこの地には、明治時代に出雲日御碕灯台が建設され、白亜の灯台が立つ今日の美しい風景が整いました。日御碕を訪れると、灯台越しに海に沈む夕日が、次々に打ち寄せる波頭や海に浮かぶ岩礁を赤く染める、絵画のような景色を鑑賞することができます。

日御碕の西側にはたくさんの経巻が固まってできたという伝承が残る^{ふみしま}経島があります。春先から夏にかけては、島の上を飛び交うウミネコのシルエットが夕日の美しさに変化を加えます。また、毎年8月7日には、日御碕神社の神職によって夕日を背景にした「^{みゆき}神幸神事」が執り行われます。

日御碕神社にはスサノオを祀る神の宮とアマテラスを祭神とする日沉宮があります。日の出の太陽に象徴されるアマテラスは、ここ出雲では日の入りの夕日に象徴され、江戸時代には、日沉宮は日が沈む聖地の宮と称されるようになります。

さらに、南東の高台に鎮座する^{つきよみしか}月読社にはツクヨミが祀られています。アマテラスと対をなす神とされ、スサノオを含めて三貴子に称されるツクヨミもまた、この地の夕日を見守っています。

日が沈む聖地出雲

古来、政権の中心であった大和から見ると、太陽は北西の出雲に沈みます。このことから出雲は「日が沈む海の彼方の異界につながる地」として認識されたと考えられます。中央で編まれた『古事記』や『日本書紀』で、出雲が^{よみのくに}「黄泉国」と「地上世界」をつなぐ地として描かれているのは、古代の人々が出雲を「日が沈む地」とイメージしていたことに端を発するのかもしれませんが。

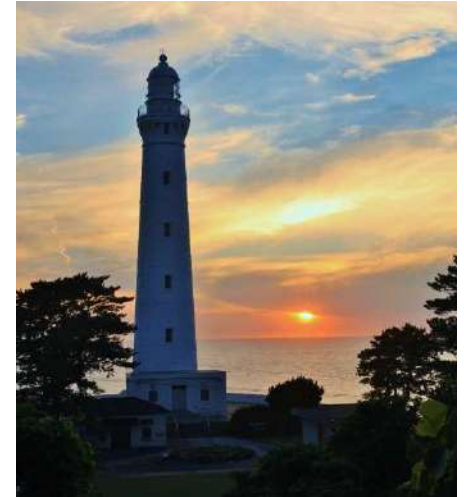
今日も出雲では夕暮れ時の挨拶として「ばんじまして」という方言が使われています。他の地域ではあまり耳にしない「こんにちは」と「こんばんは」の間を結ぶ挨拶で、夕刻に格別な思いを抱く出雲の人々の心情が垣間見えます。

穏やかな表情や荒々しい姿を見せる海岸線。それを舞台に圧倒的な存在感を示す夕日。両者が織りなす美しい夕景は神により創り出されたとこの地に生きた人々は感じてきたことでしょう。

出雲の海岸線に立って海に沈む美しい夕日に祈り、出雲神話にちなんだ神社や登場地を巡ると、日が沈む聖地出雲の祈りの歴史を体感することができます。



日御碕



出雲日御碕灯台と夕日



経島の夕日



日御碕神社の日沉宮

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	いなさ 稲佐の浜	未指定	『記紀』に描かれた国譲り神話の舞台。13.5km に及ぶ砂浜で出雲大社からも近い(西方 1.2km) 弁天島がある浜は夕日を見に訪れる観光客も多い。本ストーリーの中心的な構成文化財。	
②	その ながはま 藺の長浜	未指定	『出雲国風土記』に描かれた国引き神話の舞台。ヤツカミズオミヅヌが国を引いた綱が藺の長浜になったという。稲佐の浜と同じ浜を示し、夕日の絶景エリアとして親しまれている。	
③	ひのみさき 日御碕	大山隠岐 国立公園	日本海に突き出た島根半島の北西端に位置する夕日が美しい岬。古来、出雲は大和から見て北西の日が沈む地とされたが、日御碕は出雲の中でも最も北西端に位置する。本ストーリーの中心的な構成文化財。	
④	ながはま 長浜神社	未指定	国引き神話で国(土地)を日本海から綱で手繰り寄せ島根半島を造ったとされる神ヤツカミズオミヅヌを祀る。藺の長浜の中ほどに位置する。	
⑤	かんどがわ 神戸川河口	未指定	藺の長浜で河口を日本海に開く。弥生時代以降、他地域の船を内海の「神門水海」に迎え入れる海の玄関口としての役割を担った。	
⑥	いずもおおやしろ 出雲大社本殿ほか	国宝・国重文 建造物	国譲り神話でオオクニヌシが国を譲るとひきかえに建立を求めた「天日隅宮」(日が沈む聖地に建てられた宮)。本殿内部では、神座が西向き(稲佐の浜の方角)に設けられている。境内には全国の神々を迎えた際の宿舎となる十九社などもある。	
⑦	かみむかえ 神迎神事	未指定	旧暦 10 月 10 日の夕刻に、稲佐の浜で執り行われる出雲大社の神事。この神事により八百万の神々が全国から出雲に参集し「神議り(かむばかり)」をおこなうとされる。神々が集まる旧暦 10 月を出雲では「神在月」と呼ぶ。	
⑧	かみのみや 上宮	県指定 建造物	出雲大社の摂社。旧暦 10 月に全国から集まった神々がここで「神議り」といわれる縁結びの会議をされるという社。旧暦 10 月 11 日から 7 日間はこの社で神在祭が行われる。	
⑨	おおどち 大土地神楽	国指定 無形民俗文化財	大土地荒神社の氏子により 300 年以上伝承されてきた出雲神楽。神社の例祭では夕刻から夜を徹して舞われるほか近年では稲佐の浜での「夕刻篝火舞」で舞を披露している。	

⑩	びょうぶいわ 屏風岩	未指定	稲佐の浜から 50m ほど東に入った山手にある岩。この岩陰でオオクニヌシが「国譲り」の話し合いをしたという伝承が残る。
⑪	ふでなげしま 筆投島	未指定	平安初期、画聖といわれていた巨勢金岡（こせのかなおか）が写生しようとしたが朝夕刻々と美しさが変化する姿をついに描ききれず絵筆を投げたという伝承が残る。
⑫	つぶて岩	未指定	国譲りの際にタケミカヅチとタケミナカタが力比べのために稲佐の浜から岩を投げあったが、力は互角で何回も同じところに落ち積み重なった岩であるという伝承が残る。
⑬	いずもひのみさきとうだい 出雲日御碕灯台	国登録 有形文化財	日御碕のシンボルとなる灯台。この地が海上交通の要衝であることを象徴する建造物で、そのシルエットが夕日の美しさを引き立てている。「世界の歴史的灯台百選」の一つ。
⑭	ひのみさきじんじやしゃでん 日御碕神社社殿	国重文 建造物	スサノオを祀る神の宮（上の宮）、アマテラスを祀る日沉宮（下の宮）の二社がある。日沉宮は、太陽神アマテラスと日没の夕日を結びつける出雲ならではのユニークな観点といえる。
⑮	いずものくにふどき 出雲国風土記 ひのみさきほん (日御碕本)	県指定 有形文化財	733 年に完成した『出雲国風土記』の写本。ほぼ完全な状態の写本が残るのは『出雲国風土記』のみである。
⑯	しろいとおどしよらい 白糸威鎧	国宝 工芸品	日御碕神社の所蔵で鎌倉時代末から室町時代初期のものだとされる。アマテラスを祀る日御碕神社の隆盛を示す甲冑の優作。
⑰	つきよみしゃ 月読社	未指定	日御碕神社南東の山中にひっそりと佇む神社。日御碕神社の祭神アマテラス・スサノオの兄弟神であるツクヨミを祀る。この三貴子を近接して祀る事例は多くない。
⑱	ふみしま 経島のウミネコ繁殖地	国指定 天然記念物	ウミネコの繁殖地として有名な経島の名は、流紋岩の柱状節理が経巻を積み重ねたように見えることから付けられた。かつて日御碕神社の日沉宮があり、現在でも夕刻に行われる神幸神事の舞台となっている。
⑲	みゆき 神幸神事	未指定	旧暦 7 月 7 日（現在は 8 月 7 日）の夕刻、日御碕神社の神職が経島に渡り執り行う神事。季節柄、夕日を背景に行われることが多いため、夕日の祭りとも称されている。
⑳	うりゅう 宇龍	未指定	日御碕の東に位置する港町。戦国期には山陰屈指の貿易港として、また江戸時代には北前船の風待港として栄えた。周辺の海岸線はあまり知られていない夕日の絶景エリア。

⑳	<small>ごんげんじま</small> 権現島 <small>くまのじんじや</small> (熊野神社)	未指定	日御碕神社の末社である熊野神社が祀られる島。海草をくわえたウミネコが日御碕神社の欄干にこれにかけて去ったという故事にならって旧暦1月5日に「和布刈神事(めかりしんじ)」が行われる。	
㉑	<small>さざうら</small> 鷺浦	未指定	宇龍と並ぶ北前船の港。毎年7月31日の夕刻には豊漁と海上安全を祈願する「権現祭り」が行われ、大漁旗を翻した漁船が連なって港に浮かぶ柏島(かしわじま)を一周する。夕日を背景にした船影が美しい。	
㉒	<small>いのめどうくついぶつほうがんそう</small> 猪目洞窟遺物包含層	国指定 史跡	弥生時代から古墳時代の人骨が20体以上見つかり、『出雲国風土記』に記される「黄泉の坂、黄泉の穴」に当たるのではないかと注目されている。	

構成文化財の写真一覧

① 稲佐の浜



⑤神戸川河口



② 菌の長浜



⑥ 出雲大社本殿ほか



③ 日御碕



⑦ 神迎神事



④ 長浜神社



⑧ 上宮



⑨大土地神楽



⑬出雲日御碕灯台



⑩屏風岩



⑭日御碕神社社殿



⑪筆投島



⑮出雲国風土記 (日御碕本)



⑫つぶて岩



⑯白糸威鎧



⑰月読社



⑳宇龍・㉑権現島 (熊野神社)



⑱経島のウミネコ繁殖地



㉒鷺浦



⑲神幸神事 (撮影：武智正信 氏)



㉓猪目洞窟遺物包含層



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
48	日が沈む聖地出雲～神が創り出した地の夕日を巡る～

(1) 将来像 (ビジョン)

1 これまでの取組と課題、背景

本市は、古事記や日本書紀に描かれた出雲神話の登場地が多く残り、日本遺産「日が沈む聖地出雲」のストーリーをはじめとする神話や歴史文化が人々の心や生活に今なお息づく、現代において稀有な、奥深く多様な魅力を有する地域である。この魅力を地域内外の多くの人々に分かりやすく伝え、歴史文化の継承と地域活性化を図るため、平成29年の日本遺産認定以降、ストーリーの活用による観光振興・地域振興を目指し、人づくり・まちづくり、雇用の場の創出、集客の強化等に向けた取組を進めてきた。これにより、ガイドツアーや神楽公演などの体験コンテンツの造成、インバウンド誘客の増など一定の成果はあったが、地域的な広がり、事業の自立自走化等、未だ課題も多く残っている。

また、本市の現状に目を向けると、日本遺産の構成文化財である出雲大社の存在により観光入込客数は県内最大となっている一方、出雲大社+αの通過型観光が長年の課題となっており、宿泊者数や訪問箇所数が少なく、観光消費単価も伸び悩んでいる。また、市内の各地域においては、都市部への転出等による人口減少、高齢化、地域コミュニティの希薄化、産業の後継者や伝統文化の担い手不足など地方特有の課題が山積している。これらを踏まえれば、観光振興により地域の持続可能性を高めるため、経済効果の最大化を図るとともに、関係人口創出等により地域課題に貢献していくことが求められており、出雲市の中心的な観光資源である歴史文化資源の継承と活用についても一層重要性を増してきている。

2 総合振興計画における位置付けと目指す将来像

こうした中、2022年9月に策定した本市の総合振興計画「出雲新話2030」では、今後8年間の交流人口1億人(年平均1,250万人)を目指し、「期待(来たい)が膨らむ観光のまち出雲」を掲げているが、出雲の魅力の発信において、日本遺産のストーリーは今や欠かすことのできない要素であることから、重点施策の一つとして『日本遺産で魅力を発信』を掲げ、ストーリーや構成文化財の活用による魅力ある観光地づくり、ブランド力向上に繋げることとしている。

今後は、1の課題を踏まえ、事業の波及効果の拡大や組織体制の強化等を図り、経済効果の最大化を図るとともに、関係人口の創出、シビックプライドの醸成と地域コミュニティの活性化など、地域への貢献を一層果たしていく。具体的な将来像は、次のとおりである。

(1) 来訪者 出雲の観光名所として日本遺産である夕日の絶景等の認知度が高まっており、出雲への来訪意向の向上に寄与し、夕日鑑賞のため宿泊者も増えている。来訪者がほぼ訪れる出雲大社での着地型誘導の強化により、日御碕エリアなど、日本遺産関連エリアへの周遊率が向上しており、多くの方にストーリーに触れる機会を提供できている。ストーリーの体験により出雲の歴史的・文化的価値の理解を深め、魅力を感じることで、リピーターとして何度も訪れ多くのエリアに足を運ぶ出雲ファン(=ロイヤルカスタマー)が増えており、更には出雲を「第二のふるさと」として継続的に地域と交流し地域課題に貢献する者(関係人口)や、移住者・定住者の創出にも繋がっている。

(2) 住民 子ども・若者世代や移住者も含め、「日が沈む聖地出雲」のストーリーを誰もが知っており、神話と同様、日常会話に出てくるような存在となっている。そして、ストーリーと自然や歴史文化が織りなす唯一無二の価値に誇りと愛着を持っており、来訪者にも自ら語ろうとする。資源を守り活用することで地域の維持・活性化を図られる

ことが実感できているため、貢献意欲が高い方も多く、出雲神楽やガイドの担い手、観光客との交流参加者など、地域プレイヤーの発掘・育成が継続できている。これらを通じ、住民自らがプレイヤーとなって地域の振興・発展に取り組んでいくコミュニティの構築にも寄与している。

(3) 民間事業者 夕日の絶景や「夕日」というコンテンツが、商業的に広く活用されており、出雲ブランドのシンボルの一つとなっている。夕日の絶景がみられる宿泊施設や飲食店が増加しているほか、観光事業についても、サブストーリーやDX等により新たなコンテンツが継続的に造成されている。また、日本遺産の活用による観光客の周遊エリアが広がっており、多くのエリアでの消費に寄与しているほか、出雲産の食材を用いた関連商品が開発されるなど、波及効果が拡大している。これらの取組を実践していく中で、地域における多様な事業者の連携や官民連携が進み、持続可能な観光地経営体制の構築にも寄与している。

3 構成文化財の保存と活用の好循環の仕組み

日本遺産の構成文化財及びこれに関連する文化財を守り、その価値を高め生かしていくため、地域住民が構成文化財等の価値や魅力に気付き、関心や愛着を持てるよう、オンライン等での情報発信やストーリーを体験できる場を提供するなどの普及啓発に取り組む。また、構成文化財等をストーリーで伝える仕組みを磨きあげ、高付加価値な体験メニューを提供することで観光客の満足度向上を図る。そのことにより滞在時間の長期化やリピーターを獲得し地域経済の活性化につなげることで、保存と活用の好循環を図る。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：日御碕ビジターセンター入館者数

年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	19,706人	16,232人	17,397人	18,400人	19,500人	20,700人

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法

- ・日本遺産のストーリーを体験した来訪者数として、「日が沈む聖地出雲」の中心エリアにありストーリーの展示等を行うほか、ガイドが常駐しツアーの出発点でもある日御碕ビジターセンターの入館者数とする。
- ・「島根県観光動態調査」により把握。
- ・目標値は、2022年度の値を基準として毎年6%増（目標⑤に記載する観光入込客数の計画期間（3か年）の伸率における各年伸率。以下同じ。）を見込む。なお、2019年度の数値（24,502人）は、ビジターセンターオープンの特異要因があり例年に比べて高くなっているため基準としていない。（特異要因を除いた推計値（17,500人）は上回るよう設定。）

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：日本遺産関連イベント開催時のアンケート調査による「日本遺産「日が沈む聖地出雲」を誇りに思う」人の割合						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	－	－	－	60%	65%	70%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		日本遺産関連イベント開催時に行うアンケート調査において「日本遺産「日が沈む聖地出雲」を誇りに思う」と答えた人の割合。目標値は、これまでの実績がないため期待値として設定。				

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：出雲日御碕灯台参観料						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	10,423千円	12,158千円	17,066千円	18,089千円	19,745千円	20,325千円
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産の活用による出雲大社エリア以外への誘客・経済効果を図る指標として、日御碕エリアの出雲日御碕灯台の参観料を設定する。 ・日御碕灯台より聴取して把握。 ・目標値は、2022年度の値を基準として毎年6%増を見込む。なお、2019年度の数値(20,645千円)は、日御碕での大型イベント実施の特殊要因があり例年に比べて高くなっているため基準としていない。(特殊要因を除いた推計値(19,745千円)は上回るよう設定。) 				

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産の構成文化財及びこれに関連する文化財等が公開活用された件数						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	9件	6件	12件	14件	16件	18件
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		日本遺産「日が沈む聖地出雲」の構成文化財を素材として日本遺産事業で公開活用された件数。目標値は、構成文化財1文化財あたりの素材を出雲市日本遺産推進協議会事業として公開活用した事業1日あたり1件として設定				

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：出雲市への観光入込客延べ数						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	8,788千人	8,531千人	10,497千人	11,000千人	12,000千人	12,500千人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		島根県観光動態調査における出雲市への観光入込客数。目標値は、2025年度までの3か年をかけてコロナ前の2019年度の実績数(12,489千人)を上回るよう段階的な回復を目指す。(市総合計画の目標値と同数)				

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－B：出雲市内での宿泊客延べ数						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	551千人	585千人	723千人	750千人	800千人	840千人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		島根県観光動態調査における出雲市内での宿泊者数。目標値は、2024年度にはコロナ前の2019年度の実績数(795千人)の水準までの回復を、その後、市総合計画における2029年度の目標(1,000千人)に向け段階的に増加させることを目指す。(市総合計画の目標値と同数)				

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－C：出雲市内での外国人宿泊客延べ数						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	2,114人	1,244人	1,581人	6,000人	12,000人	20,000人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		島根県観光動態調査における出雲市内での外国人宿泊者数。目標値は、2024年度にはコロナ前の2019年度の実績数(11,552人)の水準までの回復を、その後、市総合計画における2029年度の目標(30,000人)に向け段階的に増加させることを目指す。(市総合計画の目標値と同数)				

(3) 地域活性化のための取組の概要						
<p>日本遺産の認定以降、様々な観光事業を造成してきたが、特に、日御碕神社での神楽公演やガイドツアーは高頻度での開催・集客を続けられており、公演機会の確保による無形文化財(神楽)の担い手の育成・継承や、コンテンツの増加による日御碕エリアの魅力の向上が図られた。また、素晴らしい夕日が見られることが普及し始め、稲佐の浜が夕日スポットとして多数の観光客が訪れるようになったほか、ソウルフードである「バラパン」が日本遺産とコラボした「夕日バラパン」の販売や、日御碕に新たな旅館がオープンするなど、着実にその効果が広がっている。</p> <p>将来像の実現に向けては、地域内外のより多くの人に日本遺産のストーリーを体験してもらうこと、同時に、そうした体験を将来に向けて安定的に提供できる体制を構築することが特に重要であり、重点施策①～④により、更なるステップアップを図る。</p>						

＜重点施策①＞インバウンドを含めた環境整備（情報整備と移動円滑化）

【課題】

- ・日本遺産の着地での露出度やタッチポイントが少なく、ストーリーに触れる機会のないままお帰りになる観光客が未だ多数いると考えられる。また、ストーリーの魅力が非常に分かりやすいと好評な「マンガ日が沈む聖地出雲」を生かしきれておらず、多言語対応もできていない。
- ・構成文化財全体が掲載されたエリアマップ等が存在せず、また、二次交通が脆弱であることから、エリア全体を周遊しづらい環境となっている。

【取組と目指す成果】

○多言語情報整備と移動円滑化

- ・多言語対応しているWEBマップ上での構成文化財等の情報整備、「マンガ日が沈む聖地出雲」の多言語化とWEB掲載を行い、分かりやすくストーリーを伝えることでインバウンドを含めた観光客の興味関心を高め来訪意欲の喚起を図る。また、WEBサイトを見てもらうための施策として、デジタルマーケティングやSNSを活用した情報発信によりWEBサイトへの誘導を図る。
- ・多伎エリアから出雲大社・日御碕エリアへの観光ルートの形成に資するエリアマップを作成・多言語化・WEB掲載するとともに、バスツアーやグリーンスローモビリティの運行等による周遊性の向上、着地での誘導案内を強化することで、インバウンド含めた観光客の満足度の向上を図り再来訪等誘客の強化に繋げていく。

＜重点施策②＞日本遺産を生かしたコンテンツの拡充（エリアの拡大、多様化、高付加価値化）

【課題】

- ・これまで造成した主要コンテンツは、日御碕エリアが中心であり、多伎・湖陵エリアにある構成文化財「菌の長浜」や「長浜神社」又は鷺浦エリアを生かすことができていない。
- ・神楽公演やガイドツアーなどは比較的歴史文化等に関心の高い層が中心であり、多様な層に訴求するコンテンツや、消費を促すコンテンツ、地域と交流できるコンテンツが不足している。
- ・他の事業と十分連携できておらず、ストーリーに触れる機会や周遊ツアーなどが不足している。

【取組と目指す成果】

○エリアの拡大

- ・多伎エリアから「菌の長浜」（くにびき海岸道路）を通過して日御碕又は出雲大社エリアに向かうルートを観光ルート「キララビーチライン」（仮称）として造成し、神楽公演の多伎エリアでの開催など日本遺産に関するコンテンツを造成する。これにより、構成文化財を余すことなく生かすとともに、山陰道の開通により来訪者数の減少も懸念される国道9号の道の駅「キララ多伎」周辺の地域活性化に寄与することを目指す。また、鷺浦エリアにおいては、キャンプ場「うさぎ森林公園」を拠点に夕日をフックとしたコンテンツ（自然体験・伝統行事「権現祭り」）を造成することで、滞在時間の延長や域内消費の増加を図ることで地域の活性化に寄与していく。

○アニメやDX等の活用

- ・アニメやDX等を活用したコンテンツ（ストーリーを体験できるプロジェクションマッピング等）を、地域貢献意欲の高い民間事業者と連携して造成し、歴史文化・神話自体に関心が高い層以外にも裾野を広げるきっかけとするとともに、民間事業の参入を促進する。

○他コンテンツとの連携、周遊性の強化、高付加価値化等

- ・今後造成するバスツアーや、関西万博を見据えた関西・山陽からの来雲・周遊ツアーに日本遺産を組み込み、ストーリーに触れる機会の拡大と周遊性の向上を図る。オーブントップバスツアーなど高付加価値な事業を展開する。さらに、地域の伝統芸能団体（神楽社中）との交流など地域活動に参加できる特別な体験コンテンツを造成し、関係人口創出を図る。
- ・修学旅行誘致に向け日本遺産を含むワークブックを作成し、将来世代への認知向上を図る。



※トンネル工事・大規模橋梁工事・大規模法面対策工事等が順調に進捗した場合

<重点施策③>人材育成の強化

【課題】

- ・ニーズの増加によりガイド人材が不足しているほか、多言語対応可能なプレイヤーがいない。
- ・協議会を運営していくプロデューサーがいない。

【取組と目指す成果】

○ガイド・プロデューサーの育成

短期的にはガイドニーズの多様化に対応するため、現在の認定ガイドのスキルアップ講座や日本遺産に興味がある人を対象とした体験ガイド講習会、さらに高校生向け日本遺産講座など将来に向けた人材育成にも取り組み、ガイド人口の裾野を広げる。

中期的には、持続可能な地域づくりの観点から、地域の総力戦で挑む観光地経営を見据えた官民連携のプラットフォームの組織化等を検討の中において、日本遺産事業を展開するプロデューサーの養成を行い、持続可能な体制の構築に必要な人材を確保する。

○シビックプライドの醸成

既存の「マンガ日が沈む聖地出雲」を活用した出前授業等の実施により学校教育にも日本遺産を取り入れ、地域の宝である文化財や「日が沈む聖地出雲」の構成文化財におけるストーリーを知ることで、ふるさと出雲を誇りに思う心を育み、大人になり地域外でも出雲をPRできる人材を育てる。

<重点施策④>民間主導の協議会運営と組織の活性化

【課題】

- ・出雲市日本遺産推進協議会（以下「協議会」という。）については、前計画においては認定直後から行政が主体となって取組を進めてきたが、特に後半からは民間主導による自立自走化を目指し取り組んできている。
- ・しかしながら、現状、協議会の構成団体は、観光協会を除き、大社・日御碕エリアの団体に限定されており、事業に参画する事業者等についても限定的で広がりが少ない、事業者等が積極的に提案や企画・実施を行うような機運が醸成されていないといった課題がある。

【取組と目指す成果】

○協議会の組織体制の強化

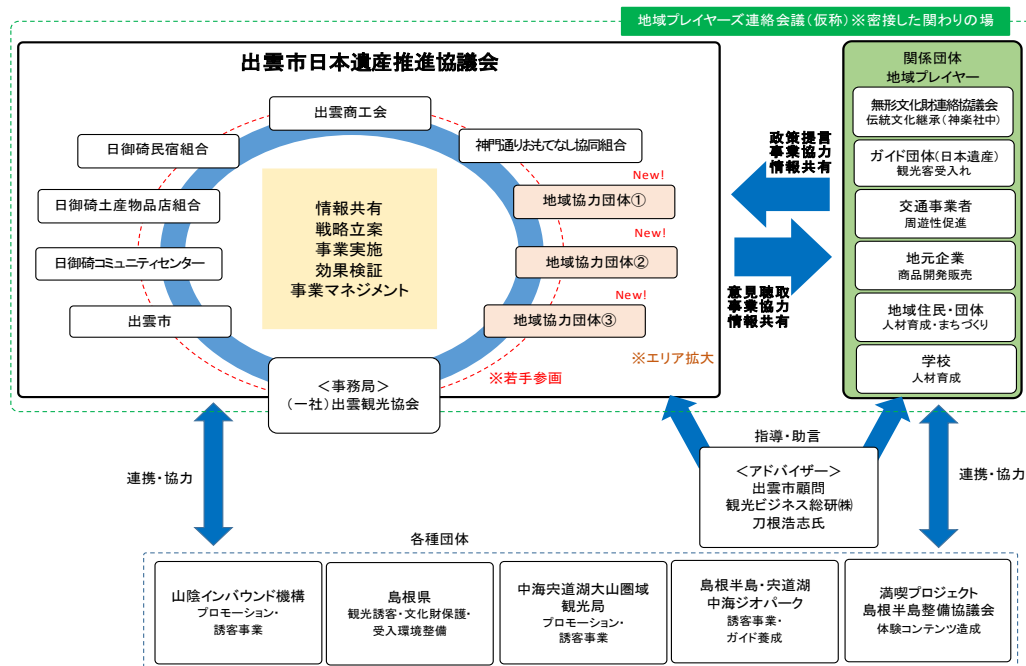
- ・本計画が始まる2023年度からは（一社）出雲観光協会が中心となって、収益性を意識しながら民間主導による協議会運営を行う。また、多伎エリアや鷺浦エリアからの参画を促すほか、構成団体の若手プレイヤーの参画を促し、協議会の活性化を図る。

○地域プレイヤーズ連絡会議（仮称）の開催

- ・協議会と関係団体・地域プレイヤーとの連絡会議（地域プレイヤーズ連絡会議（仮称））を開催し、関連事業の連携を強化し、重点施策①～③の効果的な実施につなげていく。
- ・なお、中期的には、持続可能な地域づくりの観点から、官民連携のプラットフォームの組織化等を検討し、更なる組織体制の強化を図っていく。

(4) 実施体制

現在、行政が事務局を担っている体制を次のように改め、民間主導の取組体制を構築する。



【実施体制】

- ・(一社)出雲観光協会が主体となって、協議会運営を行う。(事務局を同協会へ移管)
- ・「多岐エリア」や「鷺浦エリア」から参画を得て、組織や活動の広がりを持たせる。
- ・協議会の構成団体から「若手プレイヤー」を参画させ、積極的な活動の促進を図る。
- ・関係団体や地域プレイヤーからの意見交換や政策提言を受ける「地域プレイヤーズ連絡会議(仮称)」を設置する。
- ・関係団体や地域プレイヤーが行う事業に対し、適宜、協議会として事業協力を行う。
- ・出雲市の観光アドバイザーから、コンテンツのブラッシュアップや組織運営等について指導・助言を受けるなど、協議会運営のマネジメントに生かすとともに事業のブラッシュアップを図る。

【中期的な実施体制の構想】

- ・将来的な協議会組織については、持続可能な地域づくりの観点から、地域の総力戦で挑む観光地経営を見据えた官民連携のプラットフォームの組織化等を検討し、更なる組織体制の強化を図っていく。

【人材育成・確保の方針】

①小学生低学年からの人材育成

「マンガ日が沈む聖地出雲」を活用した出前授業等の実施により学校教育にも日本遺産を取り入れ、小さいころから地域の宝である文化財や「日が沈む聖地出雲」の構成文化財におけるストーリーを知ること、ふるさと出雲を誇りに思う心を育み、大人になり地域外でも出雲をPRできる人材を育てる。

②学校教育における人材育成

社会科副読本や「マンガ日が沈む聖地出雲」を活用し、学習や子ども観光大使※の事前研修を通して日本遺産のストーリーの学習を行い、ふるさと出雲を誇りに思う心を育む。

※修学旅行で県外を訪れる児童生徒を「子ども観光大使」に委嘱し、旅行先で広く出雲をPRしてもらうことで観光客誘客を図るもの。

③社会教育における人材育成

社会教育の拠点である市内のコミュニティセンターと連携し、ガイドツアーへの参加など実際にストーリーを体験することで、広く日本遺産への興味関心や理解を深める。また、興味関心を抱く方を新たにガイドに養成するなど各事業のプレイヤーへ繋げ、日本遺産事業に携わる人々の裾野を広げていく。

④ガイド養成

日本遺産のストーリーに興味を抱く人を対象とした体験ガイド講習会や高校生向け日本遺産講座など、将来の人材育成にも取り組みガイド人口の裾野を広げる。また、活動しているガイドについては、スキルアップ研修を行うと同時に、市内の他のガイド（出雲大社ガイド、うさぎ号ガイドなど）との交流を深め、相互に補完し合うなど体制強化を図り、ガイドOBを講師としてそのノウハウを継承していく仕組みづくりを行う。

さらに、多言語ガイドに対応するため、多言語対応ガイドマニュアルを作成し、登録ガイドでの対応も可能とする。また、国際交流団体等と協力しながら外国語ガイドのバンク化を行うことで持続可能な体制の構築を図り、外国人向け予約ガイド等でストーリーをより体験できる機会を創出する。

⑤地域外の方との繋がり

日本遺産のストーリーに興味関心を抱く観光客等に個別に情報発信することで、出雲を第二のふるさととして頻繁に訪れ暮らすように旅をする関係人口として深く繋がりを保ちつつ、将来的に、この地域で活動を共にするプレイヤーとして育成していく。

⑥プロデューサー養成

①～⑤に掲げる取組に加え、持続可能な地域づくりの観点から、地域総力戦で挑む観光地経営を見据えた官民連携のプラットフォームの組織化等の検討を進めていく中で、本市における日本遺産事業を牽引していく人材の育成を図っていく。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

これまで、自立自走化に向けて、行政主導から民間主導による事業展開を念頭に取組を進めてきた。

組織面では、2021年度に協議会会長職を行政から民間に移管、2022年度には運営主体の民間移行に向けた準備を進め、2023年度からは(一社)出雲観光協会が中心となって協議会運営を行うこととしている。また、資金面については、これまで行政の負担金により事業運営をしているが、これまでの取組において個々の事業の収益化に向けた検証を行い一定の損益ライン等について把握してきている。

今後、事業全体・個々の事業いずれも財源の自立自走化ができていないため、引き続き行政の支援を受けながら取組を進めていくが、将来的な自走化に向けて、料金の適正化と経費削減による個々の「誘客事業の収益化」のほか、インバウンドを意識したコンテンツの高付加価値化や特別な体験の提供など新たなコンテンツの造成、新たなグッズ・商品の開発販売、開発したコンテンツ等のふるさと納税返礼品化による売上アップなど「観光消費額の増加」、ロゴ使用の有料化、Web サイト上での広告収入など「新たな収入の確保」に取り組んでいく。

また、中期的には、持続可能な地域づくりの観点から、地域の総力戦で挑む観光地経営を見据えた官民連携のプラットフォームの組織化等を検討など、地域で稼ぎ、自立自走できる仕組みを構築する。この仕組みの構築に当たっては、民間事業者自らがデータ分析によるマーケティングを行い、収益を上げるためのツールとして、商品等の予約購買が可能な観光系の流通オンラインプラットフォームの導入・活用等を行っていく。また、協議会においても、絶えず構成団体・関係団体と連携し、PDCA のマネジメントサイクルを回しながら、効率的で効果的な事業運営を図っていく。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

日本遺産の構成文化財及びこれに関連する文化財を守り、その価値を高め生かしていくため、地域住民が構成文化財等の価値や魅力に気づき関心や愛着を持てるよう、様々な文化事業と連携し、今一度認知度アップに向けた日本遺産「日が沈む聖地出雲」を露出する取組に重点を置き情報発信や体験できる場を提供する。

また、構成文化財等をストーリーで伝える仕組みを磨きあげ、高付加価値な体験メニューを提供することで観光客の満足度向上を図る。そのことにより滞在時間の長期化やリピーターを獲得し、地域経済の活性化につなげることで、保存と活用の好循環の創出を図る。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	民間主導の協議会運営と組織の活性化		
概要	民間主導による協議会運営及び協議会活動の活性化を図るため、新たなエリアの団体や若手プレイヤーの参画を促すとともに、関係団体等からの政策提言や意見聴取を行う仕組みを構築する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	民間主導による協議会の運営【見直し】	これまで市が担ってきた協議会の事務局を(一社)出雲観光協会に移管し、同協会を中心に収益性を意識した民間主導による協議会の運営を行う。	協議会
②	エリア拡大・若手プレイヤーの参画による協議会の活性化【新規】	新たに「多伎エリア」や「鷺浦エリア」からの参画、また、「若手プレイヤー」の参画を促すことで、協議会活動に広がりを持たせ、組織の活性化を図る。	協議会
③	関係団体・地域プレイヤーとの関係強化の仕組みの構築【新規】	民間主導の地域が一体となった協議会運営を行うため、関係団体や地域プレイヤーからの意見聴取や政策提言、情報共有や意見交換を行う連絡会(地域プレイヤーズ連絡会議(仮称))を開催する。	協議会
④	自立自走化に向けた組織強化【新規】	持続可能な地域づくりの観点から、地域の総力戦で挑む観光地経営を見据えた官民連携のプラットフォームの組織化等を検討し、更なる組織体制の強化を図っていく。	協議会 出雲市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	構成員のうち行政(出雲市をいう。以下同じ。)以外の協議会参画団体の数		6 団体
2021			6 団体
2022			6 団体
2023	構成員のうち行政以外の協議会参画団体の数		7 団体
2024	構成員のうち行政以外の協議会参画団体の数		8 団体
2025	構成員のうち行政以外の協議会参画団体の数		9 団体
事業費	2023 年度 : 0 千円 2024 年度 : 0 千円 2025 年度 : 0 千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産事業の継続に向け、短期的には行政からの支援を受け、(一社)出雲観光協会が中心となって事業の運営を行う。この間において、収益を意識した取組(高付加価値化など)を進め、中期的にはこうした収益により自走化できるよう取組を進めていく。目標値は、参画団体を毎年度 1 団体の増加を見込む。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	行政計画への位置付け		
概要	継続的な事業展開を担保するとともに、中期的な戦略立案を図るため、各行政計画において日本遺産の活用を明確に位置付ける。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	出雲市総合計画「出雲新話 2030」への位置付け	出雲市総合計画「出雲新話 2030」において「日本遺産で魅力を発信」として位置付け、取組を進めることとしている。(計画期間：2022 年度～2029 年度)	出雲市
②	出雲市まち・ひと・しごと創生第 2 期総合戦略への位置付け	出雲市まち・ひと・しごと創生第 2 期総合戦略において日本遺産の役割等について位置付けており、取組を進めている。計画改訂時に改めて日本遺産の役割等について位置付けていく。(計画期間：2020 年度～2024 年度)	出雲市
③	出雲市歴史文化基本構想への位置付け	出雲市歴史文化基本構想の次期改訂時に日本遺産の意義や役割等について位置付け、取組を進める。(2017 年 3 月策定)	出雲市
④	出雲市文化財保存活用地域計画への位置付け	出雲市文化財保存活用地域計画において日本遺産の保存・活用の方針を定めており、これに基づいた取組を進めている。(計画期間：2021 年度～2030 年度)	出雲市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数		2 件
2021			3 件
2022			3 件
2023	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数		3 件
2024	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数		3 件
2025	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数		4 件
事業費	2023 年度：0 千円 2024 年度：0 千円 2025 年度：0 千円		
継続に向けた事業設計	既に反映されている計画については、計画改訂時に改めて日本遺産の意義や役割等について位置付ける。また、日本遺産認定前に策定した計画についても計画改訂が行われる際には、同様に日本遺産の意義や役割等について位置付ける。		

(事業番号 2-B)

事業名	効果検証と戦略立案の仕組みの構築		
概要	協議会や関係者間において事業の効果検証を行い、課題を把握しながら、次の戦略立案を行うPDCAサイクルを回す仕組みを構築する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	協議会における効果検証と戦略立案の実施【見直し】	協議会を年2回開催し、②の連絡会議の意見を踏まえながら、計画策定→進捗確認→効果検証→新たな戦略立案を行い、事業の改善を図っていく。本地域活性化計画で掲げる指標についても共有し、PDCAサイクルを回していく。	協議会
②	関係団体・地域プレイヤーからの提言等のPDCAサイクルへの反映【新規】	関係団体・地域プレイヤーとの連絡会議を年2回開催し、情報共有や意見聴取を行うとともに政策提言や事業協力を得て、①のPDCAサイクルにおいて戦略立案等に反映させ、事業の改善を図っていく。	協議会・連絡会議
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	協議会・連絡会議の開催回数		協議会 1回
2021			協議会 1回
2022			協議会 1回
2023	協議会・連絡会議の開催回数		協議会 2回、連絡会議 2回
2024	協議会・連絡会議の開催回数		協議会 2回、連絡会議 2回
2025	協議会・連絡会議の開催回数		協議会 2回、連絡会議 2回
事業費	2023年度：0千円 2024年度：0千円 2025年度：0千円		
継続に向けた事業設計	関係団体や地域プレイヤー、構成団体等の意見を聴きながら、協議会が中心となって、効果検証・戦略立案のPDCAサイクルを回していく。特段、経費は想定しないが、当面は行政の支援を受けながら取組を進めていく。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号 3 - A)

事業名	日本遺産ガイドの育成・スキルアップ		
概要	国内外の観光客や市民の満足度向上並びに日本遺産ストーリーの体験機会の安定的な提供により、将来にわたって持続可能な体制の構築していくため、日本遺産ガイドの養成・スキルアップを図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ガイド養成【拡充】	ガイドニーズの多様化に対応するため、ガイドOBや各方面の専門家を講師に迎え、スキルアップ講座やノウハウを継承していく仕組みづくりを行う、また、日本遺産に興味を持った人が体験的にガイドをできる体験ガイド講習会や高校生向け日本遺産講座を行い、ガイド人口の裾野を広げ持続可能なガイド人材を確保する。	協議会 出雲市
②	多言語ガイド対応【新規】	今後増加が見込まれる訪日外国人旅行者に対応するため、地域通訳案内士や国際交流団体のガイド協力者等のバンク化によりストーリーの体験機会の確保と持続可能な体制の構築を図る。また、ストーリーを語れる人材の裾野を広げる観点からガイド原稿の作成と多言語化を行う。	協議会 出雲市
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	ガイド養成講座等の参加者数		24人
2021			24人
2022			24人
2023	ガイド養成講座等の参加者数		30人
2024	ガイド養成講座等の参加者数		40人
2025	ガイド養成講座等の参加者数		50人
事業費	2023年度：30千円 2024年度：30千円 2025年度：30千円		
継続に向けた事業設計	ガイドツアーは日本遺産ストーリー体験の根幹をなす重要なコンテンツであり、中期的には人材と財源の両面において持続可能な体制を構築していく必要がある。短期的には人材確保を最重要取組課題とし、継続的なガイド養成講座の実施やガイドOBを講師に迎えることでノウハウの継承やスキルアップ、体験ガイド講習会によるガイド人口の裾野拡大を行うことで、持続可能で安定した組織体制を構築する。		

(7) - 4 整備

(事業番号 4 - A)

事業名	インバウンドの回復を見据えた環境整備		
概要	将来的に回復・増加が見込まれる訪日外国人旅行者の満足度を向上し再来訪に繋げていくため、訪日外国人旅行者がストレスを感じることなく日本遺産のストーリーを体験し、また地域を周遊できるよう受入環境の整備を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	WEB 情報管理ツールを活用したデジタル情報の面的整備【新規】	訪日外国人旅行者が日本遺産構成文化財や他のスポット等を円滑に周遊できるよう多言語に対応できる WEB 情報管理ツールへの情報登録を面的に推進し、受入環境の向上を図る。	出雲市協議会
②	日本遺産のストーリーを紹介する多言語パンフレット・マップの作成・整備【拡充・新規】	・「マンガ日が沈む聖地出雲」の多言語化・Web 掲載を行う。 ・構成文化財の所在を示す「着地型のマップ」の作成・多言語化・Web 掲載を行う。	協議会 出雲市
③	広域観光 MaaS との連携による交通情報等の面的整備【新規】	関西や山陽方面をゲートウェイとして訪れる訪日外国人旅行者向けに交通事業者等が提供する広域観光 MaaS を活用し、出雲へ至る交通情報(モデルコース含む。)のほか、市内における二次交通情報などの面的整備を図る。	出雲市協議会
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			—
2021	構成文化財の WEB 情報管理ツールへの登録件数		—
2022			1 件
2023	構成文化財の WEB 情報管理ツールへの登録件数		18 件
2024	構成文化財の WEB 情報管理ツールへの登録件数		18 件
2025	構成文化財の WEB 情報管理ツールへの登録件数		18 件
事業費	2023 年度 : 5,800 千円 2024 年度 : 5,800 千円 2025 年度 : 5,800 千円		
継続に向けた事業設計	短期的には、行政の他事業との連携や行政からの支援を受けながら取組を進める。中期的には、民間主導による収益性を意識した協議会運営を進めていく中で事業の自走化を図っていく。		

(事業番号 4-B)

事業名	波及効果拡大のための環境整備		
概要	現在、日御碕エリアに集積しているコンテンツ等のエリア拡大による波及効果の拡大や地域の活性化を図るための環境整備として、「菌の長浜」を始めとする現在生かされていない構成文化財を広くPRする説明板の設置やこれらを活用した設備の設置・ツアーの造成等を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	説明板の設置【新規】	構成文化財である「菌の長浜」を広く観光客や市民に認知してもらい、親しみながらストーリーを体験してもらえるよう「菌の長浜」沿いのルート上に説明板を設置する。	出雲市
②	サイクルステーションの設置【新規】	観光客等が気軽にストーリーを体験できるための環境整備として、構成文化財である「菌の長浜」沿いのルート上(大社エリア⇄多伎エリア)にシェアサイクルステーションを設置する。	出雲市
③	サイクリングツアーの造成・販売【新規】	①②で整備したストーリーを体験できるルートを活用したサイクリングツアーを造成し、多くの観光客や市民にストーリーを体験してもらう。また、このサイクリングツアーについて、(一社)出雲観光協会を始め、OTA や市で導入予定の予約購買が可能な観光系の流通オンラインプラットフォーム等を通じて販売促進を行う。	民間事業者 協議会 出雲市
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			—
2021	—		—
2022			—
2023	—		—
2024	コース上への説明板・サイクルステーションの設置		合わせて4か所以上
2025	サイクリングツアーの造成・販売件数		1件以上
事業費	2023年度：0千円 2024年度：3,500千円 2025年度：0千円		
継続に向けた事業設計	サイクリングコース上のハード整備については、行政の支援を受けながら基盤整備を行う。ツアー造成後は、ツアーの検証・改善を行いながら商品のブラッシュアップを図っていく。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	日本遺産のストーリーを体験できるコンテンツのブラッシュアップと新たなコンテンツの造成		
概要	市の顧問であるアドバイザーの意見を聴きながら、日本遺産のストーリーを体験できるコンテンツのブラッシュアップや新規造成を行い、地域内での周遊性を高め、地域内での消費額を増やし、また地域が抱える諸課題に貢献していくことで、地域全体の活性化を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	出雲神楽定期公演の実施【拡充】	・日御碕神社拝殿における出雲神楽公演を実施する。これまでの検証を踏まえ、多伎エリア（小田神社を想定）に拡大して実施する。	協議会
②	日御碕ガイドツアーの実施	・日御碕エリアに集積する構成文化財を巡りながら、深く日本遺産のストーリーを学ぶことができる日御碕ガイドツアーを実施する。	観光協会 協議会
③	オープントップバスツアーの実施	・構成文化財を眺めながら夕日のストーリーを体感するオープントップバスツアー（ガイド付き）を実施する。	協議会
④	高付加価値化コンテンツの造成【新規】	・鷺浦地域においてSDGsを意識した学びの要素と食事を絡めた高付加価値な商品の造成 ・オープントップバスツアーと食事を絡めた高付加価値な商品の造成 ・出雲神話に紐づく日本遺産のストーリーを活用し市内の歴史文化資源とコラボしたプロジェクトマップングを実施する。 ・構成文化財と音楽を融合した新たな付加価値の創造（Youtube 配信）・アニメと構成文化財と食事を組み合わせた新たな高付加価値な商品の造成を行う。	民間事業者 出雲市 協議会
⑤	関西・山陽からの周遊来雲ツアーの造成【新規】	・関西や山陽をゲートウェイとして訪れる外国人観光客にゲートウェイから出雲までの移動と市内周遊を合わせたモデルコースツアーを造成する。	出雲市
⑥	うさぎ号ツアー（タクシー・バス）の造成【拡充】	・構成文化財と他の歴史文化資源をガイド付きのタクシーやバスで周遊する「うさぎ号」ツアーを造成する。	出雲市
⑦	グリーンスローモビリティの運行【新規】	・観光客の周遊性を高めるため、構成文化財である出雲大社と周辺の構成文化財等を繋ぐグリーンスローモビリティ（ガイド付き）の運行を行う	民間事業者 出雲市
⑧	地域の神楽社中と繋がるツアーの実施【新規】	・地域の神楽社中と継続して繋がり、何度も出雲に訪れ練習や祭りなど地域活動や公演にも参加する深い繋がりを築くツアーの造成を行う。	出雲市 協議会

⑨	キャンプ場を拠点にしたコンテンツの造成【新規】	・鷺浦エリアにあるキャンプ場「うさぎ森林公園」の宿泊者向けに、夕日と自然体験（e-bike等）や夕日の中行われる伝統行事「権現祭り」を絡めた構成文化財である鷺浦の魅力を体感できるコンテンツを造成する。	各種団体 協議会
⑩	修学旅行誘致に向けたワークブックの作成【新規】	・修学旅行で訪れる学生向けに日本遺産のストーリーや構成文化財、その他の歴史文化資源を深く学べるようワークブックの作成を行う。	出雲市
⑪	コンテンツの販売・セールス【拡充】	①～⑩によりブラッシュアップ・造成したコンテンツ等について、（一社）出雲観光協会での販売に加え、地元紙・観光関連施設等での広告、県外旅行会社へのセールス、海外旅行会社との商談会におけるセールス、OTAへの掲載、市で導入予定の予約購買が可能な観光系の流通オンラインプラットフォームの活用などあらゆる手法により販売促進を図っていく。	民間事業者 協議会 出雲市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			495人
2021	日本遺産事業として販売した体験コンテンツの体験者数	629人	
2022		1,021人	
2023	日本遺産事業として販売した体験コンテンツの体験者数	1,300人	
2024	日本遺産事業として販売した体験コンテンツの体験者数	1,370人	
2025	日本遺産事業として販売した体験コンテンツの体験者数	1,430人	
事業費	2023年度：36,300千円 2024年度：27,300千円 2025年度：24,300千円		
継続に向けた事業設計	協議会が中心となり、協議会・民間事業者・行政が連携を図りながら、取組を進める。短期的には、行政が取り組む他事業と連携するほか、行政からの支援を受けながら取組を進める。中期的には、この観光事業化で造成した商品から得られる利益を原資にした好循環サイクルの構築を目指す。目標値は、2022年度の値を基準として毎年6%増で見込んだ数に新規造成分の体験者数等を加えて見込む。なお、2019年度の数値（310人）は上回るよう設定。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号 5 - B)

事業名	関連商品の開発・販売		
概要	日本遺産のストーリー等を活用した関連商品を開発及び販売することで、地域内外に日本遺産のストーリーをPRするとともに、“ささる商品”の開発により収益をあげ、地域経済の活性化を図っていく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産のストーリー等を活用した関連商品の開発及び販売【新規】	「日が沈む聖地出雲」のロゴ入りトートバック、マグカップ、Tシャツ等の関連商品を開発し、販売する。協議会によって成功事例を示しながら民間事業者の参入を促していく。	協議会
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	開発した関連商品の数（累計）		2 個
2021			2 個
2022			2 個
2023	開発した関連商品の数（累計）		3 個
2024	開発した関連商品の数（累計）		4 個
2025	開発した関連商品の数（累計）		5 個
事業費	2023 年度：100 千円 2024 年度：100 千円 2025 年度：100 千円		
継続に向けた事業設計	短期的には、協議会が中心となって、行政からの支援を受けながら商品の開発・販売を行う。取組を積み重ねながら民間事業者へ事例紹介をし、民間事業者による取組への参画を促す。中期的には、民間事業者主導で商品開発が行われ、その収益により事業展開する仕組みを目指していく。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号 6 - A)

事業名	子ども・大人に対する普及啓発の促進とシビックプライドの醸成		
概要	日本遺産のストーリーや構成文化財、他の文化財等への関心や理解の向上を図ることで、シビックプライドを醸成し、自らストーリーを語れる人材を育成する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	子ども・大人に対する普及啓発	日御碕ビジターセンターで配布している「日御碕謎解きガイドブック」により、現地で謎解きを行い、直接構成文化財等に触れることで関心・理解の向上を図る。ガイドブックは初級・中級・上級とあり、小学生から本格的に学ぶ大人まで対応でき、全問正解者にはノベルティグッズを提供し満足度アップを図るとともに人材育成にもつなげる。	協議会 出雲市
②	学校教育との連携による普及啓発【拡充】	「マンガ日が沈む聖地出雲」を活用した出前授業等の実施により学校教育にも日本遺産を取り入れ、小さいころから地域の宝である文化財や「日が沈む聖地出雲」の構成文化財におけるストーリーを知ること、ふるさと出雲を誇りに思う心を育み、大人になり地域外へ出て出雲をPRできる人材を育てる。	協議会 出雲市
③	社会教育との連携による普及啓発【新規】	社会教育の拠点である市内のコミュニティセンターと連携し、ガイドツアーへの参加など実際にストーリーを体験することで日本遺産への興味関心や理解を深める。	協議会 出雲市 住民団体
④	市内商業施設との連携による普及啓発	多くの住民が訪れる市内の大型ショッピングセンターと連携して日本遺産のストーリーを紹介するパネル展示等を行うことで、地域住民への関心・理解の向上を図る。	協議会 民間事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	各イベント開催時に行うアンケート調査において「日が沈む聖地出雲」を誇りに思う人の割合		—
2021			—
2022			—
2023	各イベント開催時に行うアンケート調査において「日が沈む聖地出雲」を誇りに思う人の割合		60%
2024	各イベント開催時に行うアンケート調査において「日が沈む聖地出雲」を誇りに思う人の割合		65%
2025	各イベント開催時に行うアンケート調査において「日が沈む聖地出雲」を誇りに思う人の割合		70%
事業費	2023年度：300千円 2024年度：300千円 2025年度：300千円		
継続に向けた事業設計	協議会・行政・民間事業者がそれぞれの立場で継続的に実施し、シビックプライドの醸成を図る。短期的には行政の支援を受けながら取り組んでいくが、中期的には、民間主導による協議会運営を進めていく中で、①の有料化など収益を確保しながら事業の自走化を図っていく。目標値は、これまでの実績がないため期待値として設定している。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号 7 - A)

事業名		デジタルを活用した情報発信	
概要		旅行情報の収集源として近年利用度が高くなっているデジタルを活用して戦略的・効率的に情報発信を行うことで、認知度の向上及び誘客の促進を図る。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	Web サイトを活用した情報発信	既に整備を行った日本語 Web サイト、外国語 Web サイトを活用し、日本遺産のストーリーの理解はもとより、「日が沈む聖地出雲」の旅を具体的にイメージできるコンテンツを揃え誘客に繋げていく。	協議会 出雲市
②	SNS を活用した情報発信【拡充】	協議会・民間事業者・市がそれぞれのチャンネルにより「日が沈む聖地出雲」の魅力を発信することで情報の拡散や Web 上での露出を高め認知度の向上を図り誘客に繋げていく。また、QR コードによる顧客アンケートデータを活用し「日が沈む聖地出雲」のロイヤルカスタマーの興味関心に沿った情報提供により顧客と地域が継続的に繋がる仕組みを構築し、関係人口として地域に深く関わる層の創出を図っていく。	協議会 民間事業者 出雲市
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	「日が沈む聖地出雲」Web サイトの PV 数(日本語と多言語の合計)		246,376 回
2021			206,081 回
2022			340,061 回
2023	「日が沈む聖地出雲」Web サイトの PV 数(日本語と多言語の合計)		360,000 回
2024	「日が沈む聖地出雲」Web サイトの PV 数(日本語と多言語の合計)		382,000 回
2025	「日が沈む聖地出雲」Web サイトの PV 数(日本語と多言語の合計)		405,000 回
事業費	2023 年度：730 千円 2024 年度：730 千円 2025 年度：730 千円		
継続に向けた事業設計	短期的には行政の支援を受けながら Web サイトや SNS の運用を行う。中期的には、民間主導による協議会運営を進めていく中で運営主体において運用を行うよう収益状況を見ながら段階的な移行を行っていく。目標値は、2022 年度の値を基準として毎年 6%増を見込む。		